

生命医科学分野の再編に伴う生命医科学研究科（仮称）の設置について

公立大学法人横浜市立大学では、第2期中期計画の長期的な基本方針「YCU ミッション」において、具体的な方向性として「生命医科学の分野における世界的レベルの研究拠点となることを目指す」とし、全学を挙げて検討を進めてきました。その結果、国際総合科学部（理学系）に生命医科学コースを設置し、それに伴う大学院研究科の再編として、生命ナノシステム科学研究科（生体超分子システム科学専攻）と医学研究科が連携し、理系と医系の分野の融合した大学院生命医科学研究科（仮称）を設置することとしました。これに伴い、公立大学法人横浜市立大学中期目標の「教育研究組織」の内容について、横浜市に検討を依頼します。

「教育研究組織」

学 部	国 際 総 合 科 学 部
	医 学 部
研 究 科	都 市 社 会 文 化 研 究 科
	生 命 ナ ノ シ ス テ ム 科 学 研 究 科
	国 際 マ ネ ジ メ ン ト 研 究 科
	医 学 研 究 科

※以下略



学 部	国 際 総 合 科 学 部
	医 学 部
研 究 科	都 市 社 会 文 化 研 究 科
	国 際 マ ネ ジ メ ン ト 研 究 科
	生 命 ナ ノ シ ス テ ム 科 学 研 究 科
	生 命 医 科 学 研 究 科
	医 学 研 究 科

※以下略

1 生命医科学分野の再編について

H23 中期目標 「社会のニーズに対応できる柔軟な体制を構築し、既存の枠組みを超えた領域横断的な教育研究を推進する。」

中期計画 「生命医科学分野の世界的レベルの研究拠点となることを目指し、大学院の医系・理系を中心とした再編を実施する。再編に合わせ、教育研究の活性化を図るため、他大学との連携についても検討する。」

H23～ 法人内 生命医科学研究科（仮称）設置準備委員会

- ◆医学部と附属病院を有することによる医科学分野の豊富な知見、及び世界レベルの研究を行う理化学研究所との共同研究体制という、市大の特徴を生かした取組
- ◆学内の完結した教育研究のみならず、生命医科学の出口を見据えた産学連携教育をも行う教育研究拠点の形成
- ◆原子・分子レベルでの論理的理解に基づき、医療、健康問題などへの応用ができる理学と医学を融合した視野を持つ人材の育成



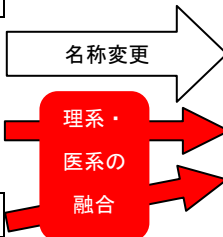
理学系と医学系が融合した領域であることを明確にするため、名称は「生命医科学」とし、
 ◎国際総合科学部に生命医科学コースを設置（平成24年度～）
 ◎大学院研究科の再編を行い、生命医科学研究科（仮称）を設置（平成25年度～）

◆現行（入学定員：博士前期/後期）

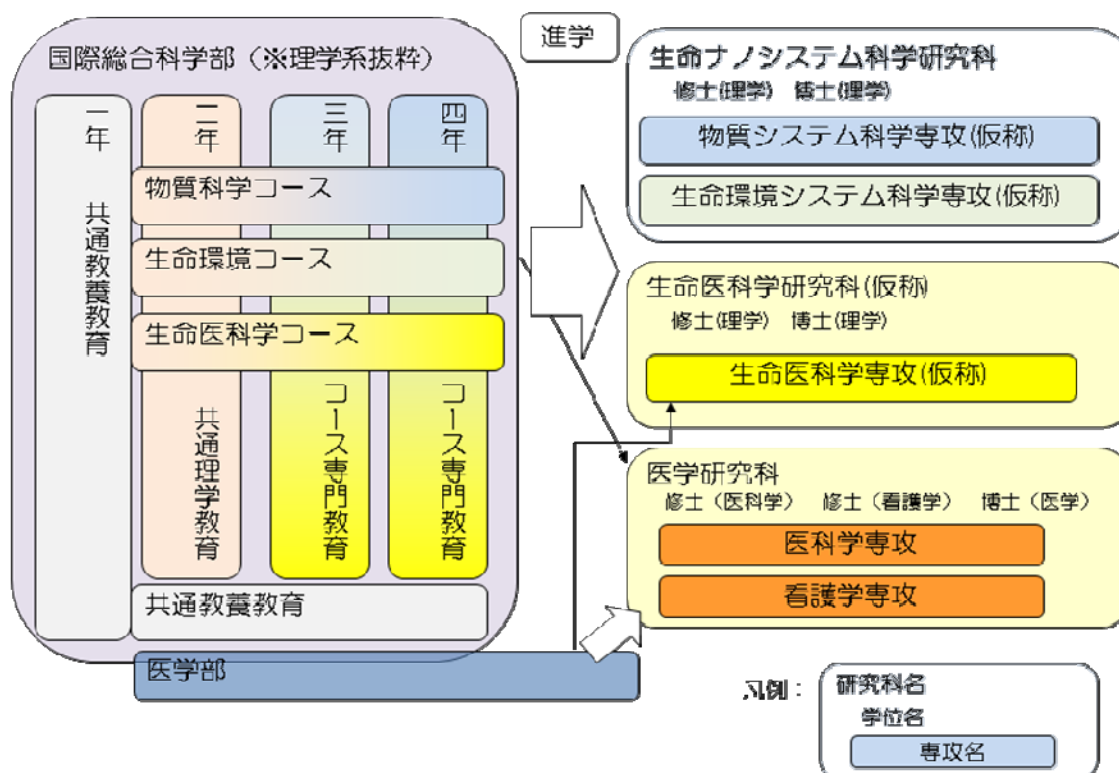
生命ナノシステム科学研究科	
ナノシステム科学専攻	(30/10)
ゲノムシステム科学専攻	(30/10)
生体超分子システム科学専攻	(40/20)
医学研究科（修士課程/博士課程）	
医科学専攻	(30/60)
看護学専攻	(12/-)

◆再編後（25年度）（入学定員：博士前期/後期）

生命ナノシステム科学研究科	
物質システム科学専攻(仮称)	(30/10)
生命環境システム科学専攻(仮称)	(30/10)
生命医科学研究科(仮称)	
生命医科学専攻(仮称)	(40/20)
医学研究科（修士課程/博士課程）	
医科学専攻	(30/60)
看護学専攻	(12/-)



研究科に連結する学部コース編成



2 生命医科学研究科 (仮称) について 【入学定員】博士前期：40名、博士後期：20名

生命医科学研究科 (仮称) は、理学の基本知識を基に、先端医療の発展に寄与する人材を育成することを目的に、理学 (生物学、物理学、化学)、医学、及びそれら生命の基盤的な物質の研究を統合した教育研究を行います。

(1) 教育研究の内容

当該研究科では、タンパク質やDNAなどの生体高分子と、それらが集合して形成される超分子複合体の立体構造を解明し、その構造に基づいて機能を解析することを目指します。その結果、細胞間コミュニケーション、エピゲノム、再生医療につながる生殖細胞、神経科学等を理解し、様々な疾病に対する合理的な創薬などの応用展開のできる教育研究を行います。

(2) 育成する人材像

原子・分子レベルにおける定量的な知識、及び技術を基盤とし、医科学への応用展開力を身につけた人材の育成を目指します。

(3) 期待される効果

世界的なレベルの研究を行う、知的基盤クラスターを形成することにより、ライフサイエンスの発展に寄与します。

3 教育研究組織の並び替えについて

今回の生命医科学研究科 (仮称) の設置に伴い、学部 (学系) との連携を考え、分野別に整理した結果、研究科の記載順について並び替えを行いました。

また、理系と医系の分野の融合であることが明確となるように、理系の生命ナノシステム科学研究科と医系の分野の医学研究科の中間に追加をすることとしました。